

を 持 つ 人 は い な い が 、 外 出 を す る と 、 よ く 見	の 立 場 が 平 等 で は な か っ た 。私 の 身 近 に 障 害	け る の が 。自 分 の 中 で 、自 分 と 障 害 を 持 つ 人	私 は 、い や だ っ た の だ 。障 害 を 持 つ 人 を 助	持 ち が 。	で も 、最 近 分 か り 始 め た 。自 分 の 本 当 の 気	こ と 、や ら な く て い い と 思 っ て し ま う 。	け ず 嫌 い で チャ レ ン ジ ャ ー だ 。そ ん な 無 駄 な	に 、話 を 聞 く 限 り 、障 害 を 持 つ 人 は み ん な 負	り 、そ ん な 面 倒 な こ と 、や り た く な い 。そ れ		び に 私 は 考 え て し ま う 。助 け た り 、見 守 っ た	必 ず 言 わ れ る 言 葉 。で も 、そ の 言 葉 を 聞 く た	時 間 に 、体 に 障 害 が あ る 人 の 話 を 聞 い て い て	こ の 言 葉 は 、私 が 小 学 校 ・中 学 校 の 総 合 の	な い の な ら 、見 守 っ て あ げ れ ば い い 。」	要 で あ れ ば 、手 伝 っ て あ げ れ ば い い が 、い ら	る 人 を 見 た ら 、声 を か け て あ げ る 。助 け が 必	「ど こ か で 、つ ら そ う に 、大 変 そ う に し て い			「平 等 」 と い う こ と
--	--	--	---	------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	---------------------------------------

分かるような気がした。「平等」の意味を知  
誰も言う「助け合い」の意味が、何となく  
ということにも気づいた。障害を持った人の  
緒に生活して当たり前で、それが平等である  
た平等とは違っていた。みんなが、誰もが一  
うことだと分かった。今まで自分が思ってい  
に過ぎせるために支え合うこと、力を貸しあ  
「平等」というのは、みんなが楽しく幸せ  
調べてみた。  
で、「平等」ということはどういうことか、  
言われても、なかなかないだろう。そこ  
う学級があるが、その人たちと仲良くしろと  
わななかった。学校にも、普通のクラスとは違  
ても、友達などと同じように接しようとは思  
「差別はいけない」ということが分かってい  
「だけど、そんなにすぐに心は変えられない。  
いることに気づいた。  
る人を、いやな目で見る自分が、差別をして  
自分と同じ世界に生まれ、一緒に生活してい  
かける。そんな人を私はいやな目で見ていた。

人が決める権利を持つているので、それで当  
いらないうのなら見守る、ということも、その  
もう一つの、助けが必要であれば助けて、  
優しく声をかけてあげられたらいい。  
もない。だから、困っている人を見かけたら、  
声をかけることは、恥ずかしいことでも何で  
だけど、それができないと平等とは言えない。  
人に声をかけるのは、すごく勇気のいること  
人を手伝ってあげる勇気が出てきた。そんな  
とで、いろいろな人を助けたり、大変そうな  
なと思う。また、平等のことについて知るこ  
のだから、ぜひ、どんどんしていけたらいい  
助け合いは、だれでも自分の身近にあるも  
ならなくてはいけない。  
みんなが笑顔になるためには、世界が平等に  
んなが笑顔になれると思う。逆に考えれば、  
だけど、助け合い、支え合いをしたとき、み  
なかつたり難しかったりする、大変なこと。  
助け合いということは、友達同士でもでき  
ったとき、なんだかうれしい気持ちになれた。

たり前だと分かった。手伝えることになっても、  
ならなくても、声をかけるその勇気と優しさ  
に変わりはない。その言葉は、声をかけられ  
た人にとって、ずっと心の中に温かく残り続  
けるだろう。だから、声をかけて損はないは  
ずだ。今、やっとこうして、あの、障害を持  
った人の言う意味が分かった。  
平等という言葉。その意味を知ってから、  
ずっと私の心の中で、まぶしく温かく、ずつ  
と光り続けている。私はいろいろな人にこの  
「平等」の意味を教えてあげたい。これを知  
った人は、みんなその言葉を心に輝かせ、一  
人一人の権利を、自然に大切にすることがで  
きるだろう。  
心を温かくする言葉を、わたしはずっと心  
に収め続け、だれでもみんな同じ権利を持っ  
ているということを忘れずに、一人一人の人  
権を尊重していきたい。また、だれでも平等  
なんだから、偏見の目で見たりすることはおも  
うやめて、みんなので笑顔で生活ができるよう

になつたらうれしい。